

3. 長寿社会をより豊かにするための住まいづくりの考え方

これからの住まいづくりには5つのポイントがあります。

長寿社会をより豊かにする住まい

家族にとって安全で快適であること

子供からお年寄りまで、家族のみんなが、家の中で快適に生活でき、滑って転んだりすることのない安全な住まいにしましょう。

年をとっても、自立でき、介助が受けられること

年をとってもできる限り人の手を借りずに自立した生活が送られるような住まいにするとともに、万が一の助けが必要になっても、今までの住み慣れた住宅で介護が受けられるように準備しておくことが必要です。

将来のことを考えた住まいにすること

これからの住まいは、家族の30年後や、自分が年をとった時のことを考えて、間取りなどが後からでも必要に応じて、大きな手を加えなくても変更できるように準備しておくことが必要です。

操作性が良く使いやすいこと

これからの住まいは、ドアの開け閉めや、浴室・便所・台所など、誰もが使いやすいものでなければなりません。

地域と交流できること

年をとると、外出がめんどろになり、家の中に居る時間が多くなりがちです。これからの住まいは、出入りしやすいようにするとともに、部屋から直接庭へ出たり、外の人と会話ができるようにしておきましょう。

そのために、これからの住まいはこんな所に気を付けてつくりましょう。

動きやすい住まい

- 部屋と部屋を行き来しやすいよう工夫しましょう。
- 段差はなるべくなくしましょう。
- 出入口の幅は広めにとりましょう。

使いやすい住まい

- 立ったり座ったりしやすいよう手すりを付けましょう。
- 家事がしやすく、収納が楽なよう工夫しましょう。
- 寝室は将来を考えるとベッドが楽です。

過ごしやすい住まい

- 冷暖房時に温度差の少ない家にしましょう。
- 色や材質に工夫し、ぬくもりのある家にしましょう。
- 緊急時に対応できるよう備えをしておきましょう。

ゆとりと可変性を持った住まい

- 将来のことを考えて、可変性のある間取りにしましょう。
- 介助などを考えて、広さにゆとりを持たせましょう。
- 車いすの利用を考えておきましょう。